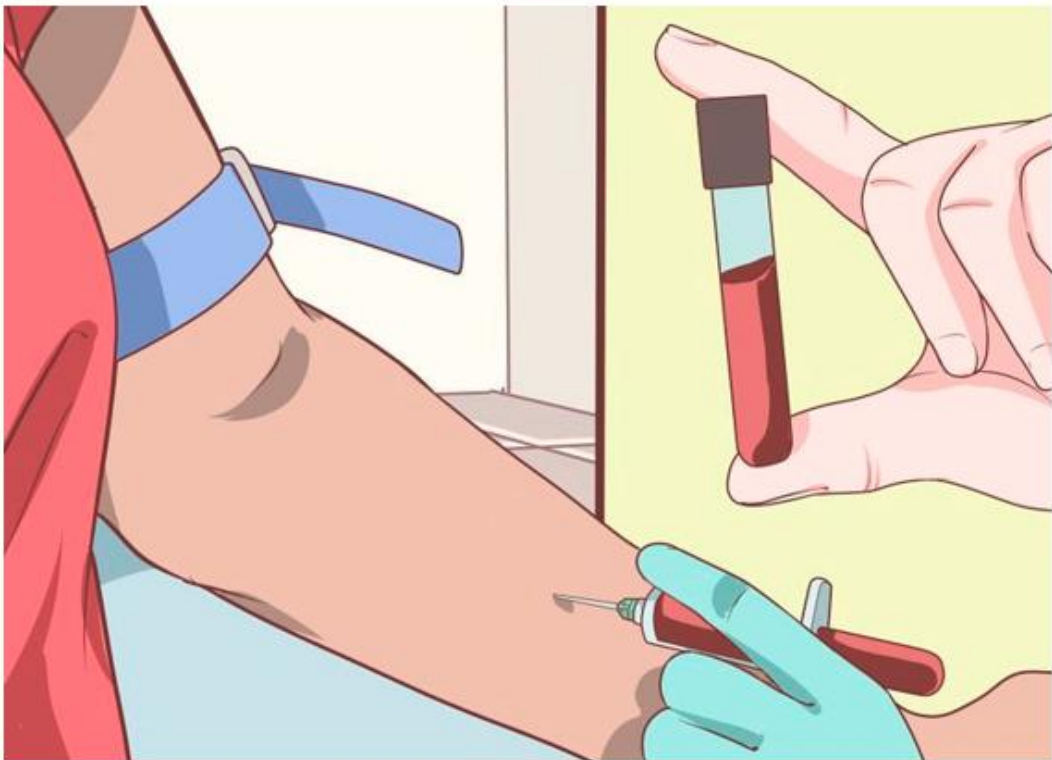


# QA ABC検診とは

ABC検診とは、**胃がん**になりやすい**危険度**を、わずかな**血液**で簡単に判定する方法です。



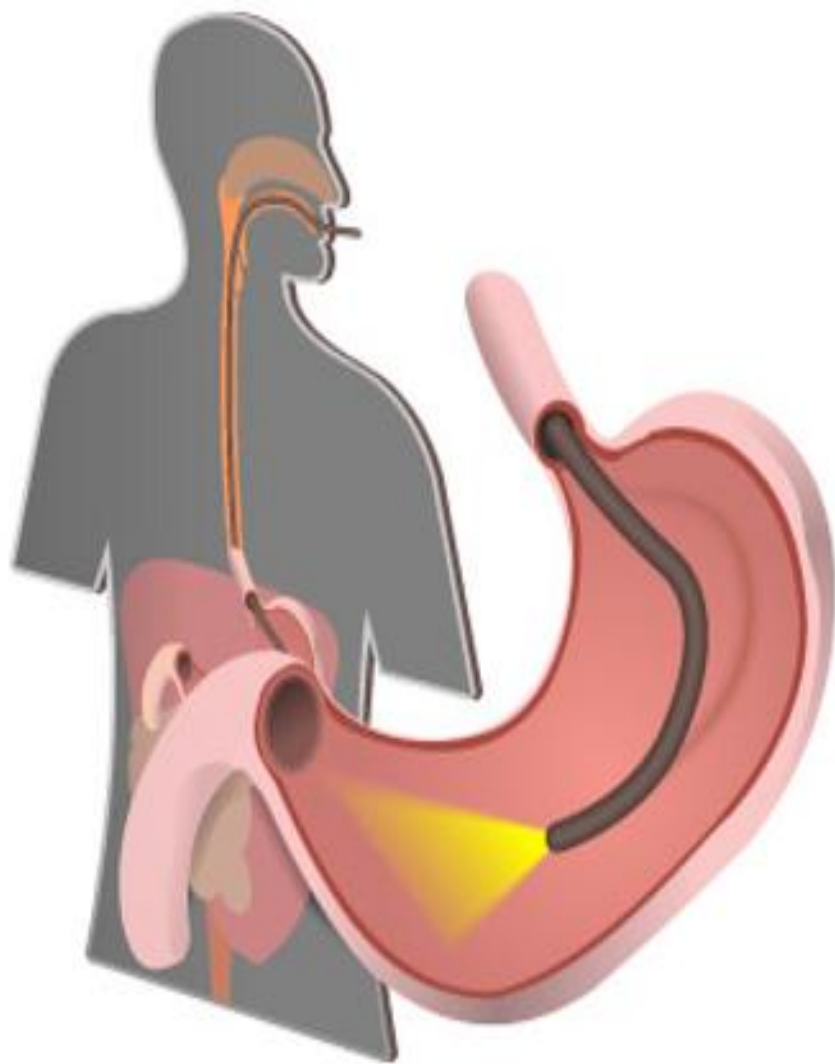
具体的には、**胃がん**になりやすい指標である**ピロリ菌感染**の有無と、**萎縮性胃炎**の程度（**ペプシノーゲン検査**）を組み合わせ、**胃がん**に対する危険度を**A, B, C, Dの4群**に分けます。

表1: ABC検診 - 危険度分類とその対応

危険度別分類	A群	B群	C群	D群
ヘリコバクターピロリ抗体検査	陰性	陽性	陽性	陰性
ペプシノーゲン検査	陰性	陰性	陽性	陽性
胃がんの危険度	低		高	
1年間の胃がん発生率*	ほぼ0人	1,000人に1人	400人に1人	80人に1人
危険度別分類に基づく行動				
除菌治療	不要	必要	必要	別法で陽性なら必要
内視鏡検査	一度は必要	定期的に必要	定期的に必要	定期的に必要

\*前北隆雄らの報告より(Helicobacter Research 2011; 15:409-14.)

A B C 検診で B、C、D 群に分類された人は、**胃がん**のリスクを考慮して、**胃カメラ**を受ける必要があります。

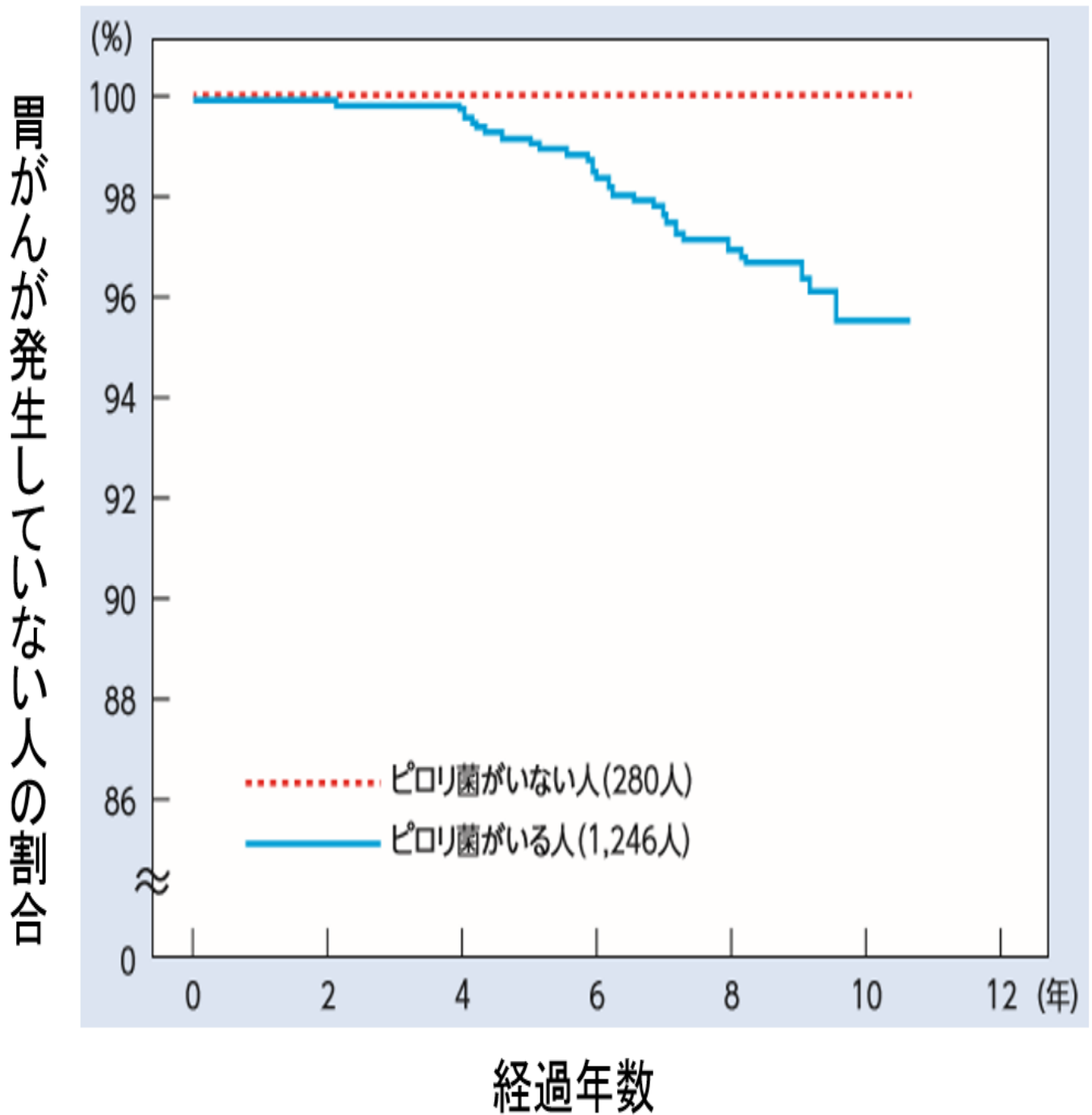


## 補 足

◎ **ピロリ菌**に感染していると、**胃がん**になりやすいことが明らかになっています。

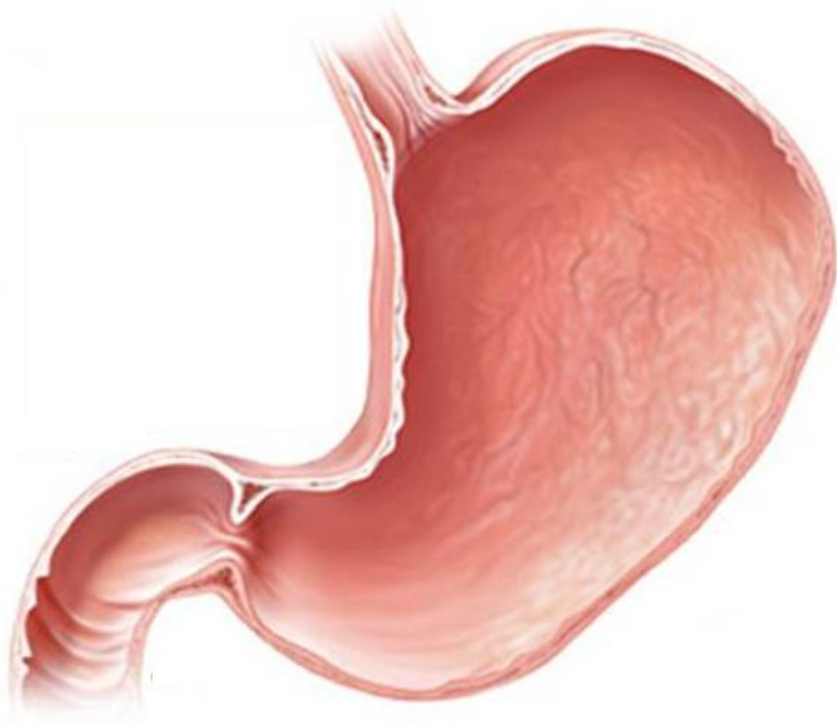


# ピロリ菌がいる人といない人の比較



出典 順天堂大学 がん治療センターニューズレター 第20号  
順天堂大学 消化器内科 准教授 北條麻里子先生の文章より引用

◎ **胃がん**の多くは、萎縮した胃粘膜、すなわち**萎縮性胃炎**から発生します。  
**ペプシノーゲン検査**は、**萎縮性胃炎**の程度を調べる検査法です。



- **ペプシノゲン**は、胃で作られる蛋白質分解酵素**ペプシン**のもとになる物質です。
- **ペプシノゲン**は**ペプシノゲンI (PGI)** と**ペプシノゲンII (PGII)** に大別されます。
- **PGI** は主として胃底腺の主細胞より分泌され、**PGII** は胃底腺の他に噴門腺，幽門腺，十二指腸腺にも存在します。
- 胃の粘膜の萎縮が進むと、胃底腺の領域が縮小していくため**PGI**の量が相対的に減ってくるようになります。
- そこで、**PGI 値**および**PGI/II 比**が低下した状態が**萎縮性胃炎**，即ち**胃がん**の**リスクの高い群**となります。



**A B C 検診に頼りすぎると危険で**

**す。**

A B C 検診の結果 A 群であっても、まれにピロリ菌がいる場合やピロリ菌と関係しない胃がん（未分化型腺がん；スキルス胃がん）が隠れていることがあります。

胃がんを見逃さないようにするためには、やはり年に1回の胃カメラを受けることが必要です。